

教職課程センターだより 第25号

発行日 2021年3月26日

巻頭言

コロナ禍のなかの学校と教師—子どもを生活主体として見る

教職課程センター副センター長 藤井啓之

新型コロナ不安が渦巻く中、安倍首相（当時）は2020年3月2日からの全国の小中高に一斉休校を要請した。感染症拡大の抑制効果については賛否両論あるが、学校や教育に与えた影響は甚大であった。休校の発表は、木曜の夕方に行なわれ、翌週の月曜日からの休校。翌日までに休校中の過ごし方や学習課題を子ども・保護者に示すため、準備に夜を徹した学校も少なくなかっただろう。小6、中3、高3は卒業式前に教師や友達との突然の別れとなる事態なだけに、陽性者ゼロの都道府県も含めた一律の休校措置が必要だったのかという疑念も出された。何より、子どもの意見を聞かず、説明もそこそこに休校にした、子ども不在の「教育」の在り方が露呈した形だ。

子ども不在の教育は、休校中だけでなく学校再開後も続いた。休校中、教えてもらってもいない単元を自力で理解して問題を解く課題もあり、教えてくれる親きょうだい等のいない子ども、オンライン学習の条件のない子どものなかには、内容が分からず、それでも期限までに課題を終わらせるため一日中泣きながら勉強した子もいたと聞く。学校再開後も、文部科学省は学習指導要領の弾力的運用を示唆したが、ほとんどの学校は遅れた学習を取り戻すために猛スピードで教科書を進めた。子どもたちは、早過ぎる授業に必死について行こうとし、マスク越しで教師や友達の情報もわからないまま、遊びも縄跳びなど一人でできる遊びに限定され、友達とじゃれあうこともできず、黙って前を向いて昼食を食べた。学芸会・文化祭、体育祭も中止や縮小となり、ストレスだらけのなかで、ひたすら学校が一方向的に進める教科書の消化に付き合わされた格好だ。にもかかわらず、コロナ禍中の学校には文化祭も体育祭も部活もなかったおかげで生徒のテストの合計点平均が何十点も上がったと喜ぶ教師もいる。

しかし、少し立ち止まってみよう。教育とは、学校とは、はたして何のためにあるのか。子どもたちは、ただ知識や問題の解法を詰め込まれるためにそこにいるのか。それで子どもたちの生きる意欲、学ぶ意欲は育っていくのか。他者と相互に関わりながら、共に未来を拓く人として成長できているのか。そういう視点に立つことができれば、「教科書の進捗が遅れる」ということの見え方も違ってくるだろうし、子どもたちをできるだけ近づけないようにし、「いかに活動を制限するか」ではなく、「どんな活動や遊びならできそうか」を考えるようになるのではないか。私が教師を目指して学ぶ人に期待したいのは、子どもの息遣いを感じ取り、子どもの願いを読み取りながら子どもの生きる意欲をふくらませることのできる実践を切り拓こうとする知性と感性を磨くことである。

3年 ステップアップ講座参加記

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修3年 石田彩夏

教員採用試験とはどのようなものなのか。まずは筆記試験について、私は3年生の教育実習後から勉強に取り掛かることができるように、採用試験についての情報を集めて準備をしていました。しかし、自分で集めた情報が本当に正しいのか、採用試験の勉強は、出題頻度が高いところを重点的に効率よくという勉強方法で大丈夫なのか、と様々な点において不安なところがありました。講座を受講し、不安な点の解消になったことと、まだ採用試験についての情報収集ができずにいた人にとっては、どのくらいのレベルの試験内容なのか、出題範囲や出題傾向を知り、勉強をスタートするきっかけを掴むことができる講座であったと思います。

そして私が1番参考になった点は面接試験についてです。教員採用試験は「面接重視」だと聞いていました。講座の中で、面接での質問は自己理解系と教職系に分かれていること、面接官からの質問に対しての回答の仕方や回答時間などを知りました。面接試験において、ただ教師になりたいという情熱だけを語るのではなく、最低限の教職知識も必要であるし、「チーム学校」や「インクルーシブ教育」など近年注目されている教育的事項についてしっかりと学ぶことも必要であると強く感じました。

講座以降、まずは自分の得意分野と苦手分野を見つけ、得意分野は確認程度で留めて苦手分野をなくすことを意識して勉強に取り組んでいます。試験とは他人と比べるものではなく自分との戦いだとは思っています。今後も教員採用試験に合格し教員として働くことを目指して勉学に努めたいです。





合格体験報告会に参加して決意したこと

子ども発達学部 心理臨床学科 障害児心理専修3年 日比野未来

「現状のままではマズイ、今すぐ行動しなければ一生後悔することになる。」「来年の合格体験報告会では、自分が報告する立場でありたい！」これらは先輩方の合格体験報告を聞いて強く抱いた想いである。

私が合格体験報告会に参加しようと思った理由は、先輩方の経験を聞いた上で今まで以上に自身のモチベーションを高めたいと考えたからである。教員採用試験に向けて勉強は始めているものの、本当にこの進め方で良いのか悩んでいた。合格された先輩方は私の憧れである。真似をすれば自身も必ず受かるという訳ではないと思うが、参考にさせて頂きたいと思い参加した。

報告をされる先輩方の中には、ゼミやサークルでお世話になっている方が何人かみえた。どのように勉強していくと良いのか、試験対策はいつ頃から進めていったのかなど知りたいことや悩みごとを幾つか抱えていたため、それらを相談したいとも考えていた。報告会に参加した結果、先輩方がどのように勉強を進められてきたのか、年間のスケジュールはどう立てたのか、使用した参考書、モチベーションの高め方、二次試験対策、先生方や仲間はどう声を掛け協力を得たのかなど、様々なことを知ることができた。

受験する県や面接練習をするグループを作ることができた点も、今回参加した特権であると感じた。併願をするか否かで悩んでいるため、その点をもう少し詳しく聞きたかった。発表をされている先輩方の姿は、大変カッコいいものであった。合格を勝ち取るために日々努力を積み重ねてこられた当事者だからこそ、後輩の私達に伝えて下さる言葉は一つ一つに重みがあった。

中学校1年生の頃から特別支援学校の教員になることを夢見てきた。教員採用試験に受かることだけがゴールではないが、今まで抱き続けてきた夢を叶えるためのハードルのひとつであることには違いない。「合格」という経験をしたことが少ない私ではあるが、来年の報告会では堂々と胸を張って合格した過程を後輩に伝えられればと思う。先輩方の実体験を聞ける貴重な合格体験記に参加したことにより「合格してやる！」という意思が更に強まった。辛く過酷な道のりであっても明るい未来を信じて、努力を惜しまず精進していきたいと強く思う。





合格体験報告会に参加して

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修2年 井出静海

1 なぜ参加したのか

3年時から所属を希望しているゼミの先生に言われたのが一番大きいです。私は、合格者の合格経験を聞くということは、とても大切だと思っていました。しかし、それが2年生の私にとってはまだ早いと思っていたのも正直なところです。その先生にこの2年生の冬休み・春休みを準備期間にしようと言われて、夢が明確で目標としてあるならば、合格経験は聞くべきと思い参加しました。

2 参加して参考になった点

一番参考になったのは、勉強の方法です。漠然と過去問を解くだけでも今のうちはなんとか知識の構築はできるかもしれませんが、いずれ壁に当たったときに対処法が分からなかったのが、今回の体験を聞いて勉強方法が参考になりました。また、どのような参考書を使っていたのかも役立ちました。出題傾向を調べたりするなかで満遍なく一通り使おうと考えていた参考書があったので、それがそうならないように考えることができました。

3 もっと知りたかった点

特にこれと言ってもっと知りたい部分はなかったですが、どのぐらいの気持ちで勉強していたのか気になりました。あとは合わせて就活もされていたのか気になりました。

4 教採に向けての意気込み

私は1年以上時間がありますが、あるようでないのが準備期間なのかなと感じました。先輩方がどれだけ教採に向けて気持ちを持っていったのかも知れてためになりました。来年も報告会に参加して1年前とそのときにどんな取り組みの差があるか明確になればいいなと思います。教採に受かって初めてスタートだと考えるので、努力の仕方であったり考え方であったりそういう大まかな部分は今からスタートできると思うので固く考えることなく楽しく教採に向けて勉強を進めていきたいと思えます。





合格体験記(愛知県／小学校)

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修4年 渡辺寛大

教員採用試験に向けて勉強を始めたのは大学3年の秋からで、主に一般教養から進めていきました。教職教養についてはその半年後から始めました。一般教養の勉強の進め方としては、希望の自治体の過去問をひたすら何回も繰り返して行い、自分の実力をしっかりと把握し苦手な部分の補強をしていくなどしていきました。(問題集：『愛知県の教職・一般教養、2021年度過去問』、協同出版と『愛知県の小学校教諭2020年度過去問』、協同出版の2冊)教職教養は問題集を1つ買い、内容を覚えながら4周ほど繰り返しながら勉強しました。(問題集：『教職教養の演習問題』、時事通信社)

教員採用試験を終えて思うこととしては、筆記試験はどれだけ勉強したかどうかで決まります。何度も過去問を問いたり、問題演習に取り組んだりしてください。教職教養は多くの知識を求められるので早めにやっておくことが大切になります。正しく覚えなければならぬので直前ではできるようになりません。私は取り組むのが遅かったので、とても苦労することになりました。他にも、一般教養についてはそこまで難易度は高くないので完璧に答えられるくらいまで練習すると本番のときに自信をもって答えられ気持ちが楽になると思います。

次に面接の練習ですが、なるべくたくさん行うようにしてください。面接の雰囲気を少しでも感じておくと、本番で緊張せずに受けられます。さらに、自分を見つめ直したり、受け答えの仕方を学んだりすることも出来ます。私はゼミの先生や信頼できる人をお願いしてやってもらいました。面接で重要なのは自己分析と教育についての知識です。まずは自己分析から行ってみてください。愛知県の場合場面指導があるので、過去に出題されたものを参考に自分が教師だったらどうするか考えまとめてみると思います。そして、それを持ち寄って仲間と検討会をするなどしてさらに考えを深めてください。

コロナ禍で大変難しい状況であるとは思いますが、私の経験で伝えたいのは第一希望の県や自治体以外にも他県や他の自治体を受験することをおすすめすることです。特に第一希望の県や自治体の試験日前に教員採用試験とはどんな雰囲気なのか感じておくと本命の県で緊張せずに落ち着いて受けられるかもしれませんよ。実際、私はそうしました。

最後に、私が受験した際はコロナ禍での受験となったため、集団面接、集団討論、小論文の試験が中止になっていたため、それらの勉強方法などがお伝え出来ず、申し訳ありません。参考になったかどうかは分かりませんが、何か一つでも皆さんに響いたことがあれば幸いです。教員採用試験は様々な人が受けています。圧倒されることなく自分らしく、教員として子どもたちを思って、一生懸命頑張りたいという気持ちを持って受験してください。最後まであきらめずに取り組むことでその先に素晴らしい結果が待っていると思います。私自身何度も心が折れそうになり、諦めかけましたが、自分を奮い立たせ何とか最後までやっていけました。そして、一緒に頑張れる仲間を見つけてください。きっと支えになります。辛い勉強を続けられます。そうして取り組んだ一年間、最後まで頑張ってよかったと今、とても感じています。教員採用試験に合格するという目標に向けて全身全霊で取り組んで下さい。応援しています。

合格体験記(名古屋市・特別支援学校)



3度目の挑戦！

子ども発達学部 心理臨床学科 障害児心理専修 2019年3月卒業
中村杏奈

私は、名古屋市特別支援学校小学部の常勤講師として働いています。今年度、名古屋市と神奈川県
の教員採用試験に合格しました。名古屋市は3度目の受験、神奈川県は初めて受験した自治体でした。4月
からは名古屋市特別支援学校教諭ピカピカの1年目として、子どもたちに向き合える日を楽しみにして
います。今日は、私の体験記が誰かの試験対策の参考になれば幸いです。

筆記試験対策

常勤講師として働きながら試験勉強をすることは、自分が考えていた以上に体力勝負でした。「朝早
起きをして、勉強すると効率が良い」ことは耳にタコができるくらい聞いています。しかし、私は早起
きが得意ではありません(笑)そのため、平日は帰宅してから約30分~1時間は問題演習をする、仕
事で疲れてクタクタ…そんな日は参考書〇ページだけでも目を通すと決めていました。

教職教養対策・・・受験する自治体の出題分野を分析し、「出題科目別過去問集」という全国版の問題
集を最低でも3回解き直しました。

専門教科対策…本命の名古屋市は記述式のため、できるだけ書いて覚えました。問題集に載っている「こ
の中から番号を選択して答えなさい。」という問いにも番号と語句・文章を必ずノートに書いて、対応
できるようにしました。新しい参考書や新しい学習ノートが手に入るとやる気出ますよね。私もすぐ新
しい教材に目移りしてしまいます。しかし、いまあなたの手元にある参考書を繰り返すだけでもずっと
力になると思います。

面接試験対策

面接は「印象」勝負です。30分前後(今年はコロナの影響で20分でした)で自分の魅力を語らな
くはいけません。みんなは若くてフレッシュです!これはとても大切なアピールポイント!せっかく
満点の回答をしても表情が硬かったり、声が小さかったりすると自信がなさそうに見えてしまいます。
私自身も言葉に詰まると、視線が斜め上方向に泳ぐクセがありました。鏡の前で何度も練習を重ねるこ
とで自信がつき、試験当日は楽しく面接を終えることができました。キラッと輝くあなただけの強みを
たくさん持って面接に臨んでください。

息抜きも大切

教採が近づくにつれて「もっと勉強しなきゃ!」「趣味にかまけてる場合ではないわ」とつい焦って
追い込んでしまいがちです。これは、教採の面接で実際に聞かれた質問です。「趣味や特技は何ですか。
また、休日は何をして過ごしていますか」「あなたのストレス解消法を教えてください」「最近読んだ
本で特に印象に残っているものは何ですか」、教育論ではなく、人間性を見極める質問も面接では聞か
れます。教育に関係ない本を読んだり、運動したりして、自分の好きな過ごし方でしっかりリフレッシュ
してください。

さいごに

コロナ禍で思うように実習ができなかったり、縦のつながり(先輩との交流)も薄くなっていたりし
ていると思います。何か力になれることがあれば伊藤修毅先生を通じて(笑)いつでも連絡ください。
卒業生として、皆さんのこれからを心から応援しています。



合格体験記（名古屋市・福祉科）

社会福祉学部 社会福祉学科 2017年3月卒業 平松菜帆

皆さん、初めまして平松菜帆(ひらまつなほ)と申します。2017年3月に日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科を卒業しました。在籍中は、愛知県の教員採用試験を受け、見事に落ちました。社会福祉士の試験は落とすわけにはいかないという気持ちと負けず嫌いな性格が幸いしてか、社会福祉士の試験になんとかギリギリ滑り込みセーフで合格しました。卒業後は多くの方のお力を借りながら、令和3年度の名古屋市教員採用試験に合格させていただくことができました。教員採用試験合格からほどなく、日本福祉大学の先生より「教員採用試験の合格体験記を書いてもらえないでしょうか」というお話を頂きました。正直、「私でいいのでしょうか」と不安になりました。合格体験記というのは、おそらく勇気をもらえるような内容が書かれているのだと思います。しかし私の合格までの道のりは険しいというよりは泥だらけでデコボコでまるで整備されていない道のりでした。そのためおそらく感動する話にはならず、心打たれる話にもならないかもしれません。そんな合格体験記にはなりますがこの場をお借りして、紹介させていただきたいと思います。お付き合いください。

大学生の頃に受けた教員採用試験は、一次試験で落ちました。講師1年目は愛知県立の学校で働く中、見事に落ちました。2年目は名古屋市立の学校で働きながら、これまた落ちました。3年目は三重県立の学校で働きながら、最後には落ちました。努力しては落ち、努力が足りなくて落ちの繰り返しをしていました。筆記は通ったけど面接で落ちるなど繰り返し、自分に自信がなくなりました。一緒に卒業し、同じ道を志している人たちはどんどん受かっていくことを悔しく感じ、嫉妬しました。そんな風に嫉妬している自分が情けなくなったこともあります。この道が自分には合っていないのではないかと思ったこともあります。仕事しているから勉強する時間がないと言い訳したこともあります。教員採用試験を受けるたびに、自分という人間が嫌いになっていきました。

考え方が変化したのは講師4年目の今です。2年目でお世話になった学校でまた働かせていただくことになりました。4年目に初めて、自分が今までに働かせていただいていた現場で何を学び、今何を伝えたいのかわずかではありますがわかってきました。例えば、一人ひとりの生徒との関わり方、他の教員の先生方との連携の仕方、「生徒をよく見る」こと、誰のための何のための授業なのか、何を伝える授業なのか、教育現場の魅力など……。出会った先生方からたくさんの視点を学び、自分のものにしたいと思うようになりました。いつも生徒のことを想って動ける教師になりたいと思うようになりました。真摯に生徒と向き合える教師になりたいと心から思うようになりました。教師として、一番大切なことは「生徒たちにいつも本気で向き合うこと」、それは教員採用試験に合格しようがしまいが変わらない大切なことだと学びました。

私は、今まで「教員採用試験に合格すること」だけを考えていました。それは教員になりたかったからです。だからこそ今までの私は「4回落ちたこと」を恥ずかしく思っていました。しかし、今は恥ずかしく思いません。4回落ちたからこそ、様々な人と出会い、成長するきっかけを頂きました。この経験は私の誇りです。

最後に今、この文章を読んでいるあなた。私たちは教員採用試験に受かることが目的ではありません。なぜ教師になりたいと思ったのか、その熱い気持ちを忘れないでください。落ちてしまって落ち込んでいるあなた。むずかしいことは考えずに教育現場に関わってみてはどうでしょうか。福祉を教えることの尊さを、生徒とともに成長できる魅力をきっと感じられると思います。そして、自信がなくなってしまっているあなた。その気持ちになっているのは、あなただけではないですよ。平松も働く中で日々そう思っています。安心してください(笑)。いつか、また、どこかで教師になった皆さんと同じ想いを持った仲間として会える日を楽しみに、私もこれからの道を進んでいきます。ここまで読んでいただきありがとうございます。

～卒業生からのたより～

活かされる学び

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修 2020年3月卒業
秋野夕日

「当たり前」という生きづらさから抜け出した大学時代から半年以上が過ぎ、私は大人が作り出したルールが「当たり前」の世界で奮闘しています。

4月、子どもに「この消しゴムは学校で使っている消しゴムですか?」「この麻婆豆腐をご飯にかけて食べていい?」…と聞かれ、なぜそんなに確認するのかと衝撃を受けました。子どもたちの考え方は「当たり前」が当たり前になっています。

ある日、一人の子どもが「いつも一日の目標を黒板に書いているけれど、意識している人はいるのか。いないのであれば、目標も黒板に書くことも意味ない。」と言いました。今思うと、鋭い指摘です。それを聞いた他の子どもは「目標を書くのは当たり前!」「自分は書いている目標を意識している!」と反論しました。そして、なにより私も「目標を書くのは当たり前」「ほかのクラスもやっていることだからこのクラスもやるのが当たり前」という固定概念から、いかに目標が大切かを熱弁してしまいました。冷静に振り返ると、学校の「当たり前」に一番縛られているのは私だったとショックを受けました。ルールにも作られた目的があるのは大前提として、子どもが自分で考えて行動してほしいと願うのであれば、「当たり前」を私が作っていると思わせてはいけないのだと感じました。

目の前の子どもたちは、私が大学時代に山本敏郎ゼミのみんなと戦った「当たり前」という生きづらさの世界に生きています。その「当たり前」の生きづらさを、今度は子どもと一緒に戦って、抜け出したいと思います。

また大学時代、一晴さんと自主ゼミで愛知の地域教材を学習したことを活かして、子どもと地元の水引を使った伝統を学んでいます。その学びが派生し、「コロナにかかった人を差別しない」という意思表示となる、水引で作ったシトラスリボンを作り地域に広めようとしています。子どもたちも「悲しい思いをする人を減らしたい!」「水引を広めたい!」と前のめりです。

しかし二学期終業式の日、シトラスリボンをノリノリで作っていた一人の子どもが私にこんなことを言いました。「コロナの人を差別しないようにシトラスリボンを作っているけど、本当にできるのかな。ぼくのお父さんが帰ってきてみんな何も言わない?」と。その子どものお父さんは、単身赴任でN市に行っており、コロナの影響でその子に会えていません。私の住む地域は感染者や県外在住の人に非常に厳しい目が向けられています。その目に、その子は苦しんでいるのだと思います。私の中に新たな問いが生まれてきました。3学期はその子の生活台から子どもにとっての真の学びを切り開いていきたいと思っています。

以上のように、現場の実践においても、大学で学んだことは重要な知見となっています。秀人さんとの体育自主ゼミのおかげで、体育のマットの授業では、子どもの成長を子どもと一緒に喜ぶことができました。板垣先生との算数自主ゼミのおかげで、子どもから「算数が好きになった」という言葉をもらっています。敏郎さんをはじめ、今の私を作ってくださった日本福祉大学で出会ったみなさんに感謝申し上げます。見えないところで支えてくださったみなさんにも感謝申し上げます。ありがとうございます。



～卒業生からのたより～



教師を目指す学生に向けて

経済学部 経済学科 2010年3月卒業
安城学園高校教諭 増永和大

私は今、愛知県の私立高校で教諭として数学を教えるとともに、硬式野球部の監督をしている。

私の教師になる上で欠かせないことは小学生から始めた野球である。とにかく野球が好きで学生生活は朝から晩まで野球と共にあった。もちろん小さい頃の夢はプロ野球選手であり、甲子園やプロ野球を見て育った。高校進学をする際も決め手は一つ、甲子園に1番近い高校を選んだ。しかし、甲子園に行くことは叶わず野球選手としても大成しなかった。そんな中で次の夢が高校野球の監督をすることであった。ただ漠然とやりたいと思っていたが野球に携わる仕事がしたいという思いだけは小さい頃から変わらぬ思いとしてもっていた。大学に進学する際も考えていたことは受験科目や学部ではなく、どこの大学で野球をやりたいかであった。小学生の頃から得意科目は数学だったが、あくまで人並みであり野球漬けの学生生活を送っていたため受験学力は皆無だった。しかし、心の中では、学生生活では野球に打ち込み、やり切ったら数学を勉強し教員免許を取ろうという妙な自信だけはあった。本格的に数学の道に舵を切ったのは大学4年生のときである。日本福祉大学の経済学部に入學しマジメとは言えないながらも単位を取り、野球の方は現役に区切りをつけた私に教職の授業でお世話になっていた先生から付属高校の野球を見てみないかという誘いを受けた。そこで見たもの、感じたことの全てが教師としての私を作ったと言っても過言ではない。私の人生のターニングポイントである。お世辞にも上手くない。チームも弱い。満足な練習環境も練習時間もない。そんなチームを見たとき、私は今までどれだけありがたい環境で野球をやらせてもらい、野球の一面しか見てこなかったのかと考えさせられた。上手くはないが一生懸命に練習をする生徒を見て、何とか勝つ喜びを味わわせてあげたいと強く思った。教師としてもっと野球を勉強し、教師として立派になる必要があることを生徒に教えてもらった。だからこそ周りの友人が就職をしていく中、数学の教員免許を取得するために、再度学校に通う決心ができた。さらに、当時のチームの監督、部長は数学教諭であり数学の勉強を夜遅くまで見てもらった。

卒業後は日本福祉大学で契約社員をしながら野球部のコーチ、夜は塾でバイト、空いた時間に勉強をした。3年かかったが一度も諦めようと思ったことはなかった。免許が取れてからは日本福祉大学付属高校で講師を勤め、28歳の時に今の学校に教諭として採用をされた。今私が感じていることは、たくさんの人に迷惑をかけ、私に期待をしてくれた方が振り返るとたくさんいた。その人たちと出会えなかったら今の私はないだろう。その感謝を忘れずに私に教師としてのエネルギーを与えてくれた分、今の生徒にそのエネルギーを伝えていくのが使命だと考えている。

日本福祉大学で教師を目指している後輩たちに2つの事を伝えたい。

1つ目は人との出会いを大切にすること。さまざまな人と出会い人間が形成されていく。自分自身が成長する上で必要のない人はいない。また、成長を諦めた教師に生徒はついてこない。

2つ目は生徒は自分ではないということ。生徒にはさまざまな家庭環境があり、性格、感性もさまざまである。教師という立場で生徒を評価をするが生徒一人一人に良いところがある。正確な評価をしながら生徒一人一人の立場に立って生徒の良い部分を引き出せる教員になってもらいたい。その点では、私もまだまだ教師として修行中である。

以上が日本福祉大学で教師を志す学生へのメッセージである。学生生活を謳歌しながら目標に向かって努力して下さい。



教育実習体験報告(特別支援)

スポーツ科学部 スポーツ科学科4年 島田花

私は沖縄県にある美咲特別支援学校の中学部で教育実習を行いました。美咲特別支援学校は幼稚部から高等部までの知的障害児が通う大規模な学校で、障害の程度や生徒の段階に合わせたクラス分けが行われていました。私が担当したクラスは男子生徒が5名で、教師が3人のクラスでした。最初は緊張して、生徒とコミュニケーションも取れず、何をしたらいいのか分からない状態で、先生方についていくのが精一杯でした。しかし、毎日一緒に生活していると、私の存在を意識してくれるようになり、次第に少しずつ心を開いてくれました。また、先生方が生徒一人一人の特徴や性格を丁寧に教えてくださったり、生徒が毎日行うルーティーンをサポートを私に任せてくださったおかげで、少しずつ生徒を理解できるようになりました。

実習終盤では、あまり意思表示をしない生徒も「私があと数日でいなくなる」ということを理解してくれて、私と目が合う頻度が多くなり、悲しい顔をしてくれました。その時に、私も生徒と離れることに寂しさもありましたが、この2週間で生徒との距離を縮めることができたのだと実感でき、とても嬉しかったです。この経験から、生徒の少しの変化に気づき、発見できたことがこの実習で成長できた部分ではないかと思いました。

また、実習期間に運動会が行われたこともあり、放課後に準備を行ったり、時間編成を行って運動会練習を行ったりと、実習期間とても忙しい毎日でしたが、普段見ることのできない生徒の表情や、行事の準備の様子を実際に体験でき、とても貴重な経験ができました。

この2週間の実習を通して、生徒の日々の変化を見逃さず、授業づくりや日々の活動に活かすことが重要だと改めて感じさせられました。そのため、私も生徒の少しの変化に気づき、成長を見守っていただける教師になりたいと思いました。





教育実習体験報告(小学校)

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修3年 大野早紀

私は、小牧市の小学校に2週間教育実習に行ってきました。担当学年は、3年生でした。愛知県はコロナの感染症対策のために本来4週間の実習が2週間になり、実習校の授業時間も1教科45分ではなく35分という短さになっていました。2020年度の教育実習は本来の教育実習と異なり時間が短かったため、授業の準備、教材研究をすることが大変でした。しかし、自分から担当教諭に模擬授業を見てもらうようにし、子どもたちとも多く関わり、短い期間でしたが多くのことを得ることができました。多くの課題が残りましたが、実習の中で主に学んだことを2つ挙げていきます。

1つ目は、子どもたちと関わることの大切さです。私は、初日から子どもたちと授業、休み時間に一緒に校庭で遊び、関わっていきました。話すことが苦手な子には、授業時間で良いことを書いてあれば褒め、徐々に関わりを増やしていきました。そこから、子どもたちの性格や良い面を見ることもできました。しかし、良い面だけでなく、子どもたちには学校での生きづらさがあるのだと改めて学ぶことができました。先生に気づいてほしいけれど、他の子を相手にしており気づいてもらえない、授業で嫌なことがあってもクラス全体を見ていて先生に気づいてもらえず、次の授業が始まってしまう場面等が見られました。このような子どもたちの生きづらさに直面をし、子どもと関わることは実態を把握するために大切なことだと学びました。また、その生きづらさを把握し、改善できるような行動に移せるようにしていかなければならないと学びました。

2つ目は、何を学ばせたいのかを明確にすることの大切さです。私は国語、道徳、研究授業の算数、1日実習での授業を担当させてもらいました。国語、道徳、研究授業は実習前に担当教材の場所を決めていたので教材研究を深くすることができました。また、算数では紙芝居を使った導入をし、子どもたちの興味を引き、学んでほしいことを明確にできました。しかし、特に1日実習の算数では、実習が始まった時に担当する教材を決めたので、教材研究を十分にできず思うような授業をすることができませんでした。そこで、担当教諭から「教材研究をすることも大事だけど、子どもたちに何を学ばせたいのかを明確にして授業を組み立てるといい」と教えてもらいました。私は、算数が苦手であり、どのように授業をすれば子どもたちが理解しやすいのかと考えすぎていました。「子どもたちに学んでほしいことを明確にする」ことは、子どもたちに理解しやすい授業を作り上げることに繋がり、そこから子どもたちが授業に取り組める工夫をしていくことが大切だと学ぶことができました。

私は、実習を通して教師というのは大変な仕事だと改めて感じました。しかし、子どもたちの成長や良い面を知ることでもでき、子どもたちが良い学校生活を送れるように頑張ることでもできるので、やりがいのある仕事だと感じました。教育実習で学んだことを教員になった時に活かしていきたいと考えます。





教育実習体験報告(保健体育)

スポーツ科学部 スポーツ科学科4年 笹倉康佑

教育実習に行く前の気持ちは、多くの生徒に会えるという期待と、教師として授業を展開していくことができるのかという不安が入り混じった状態でありました。

実習が始まり、まず感じた事は、教師として授業を展開していくことの難しさであります。どのような流れで授業を展開していくのか、どのように声をかけて生徒を指導していくのか大学の講義や模擬授業等で学習はしていたものの中々うまくいかない状態でした。そのような中で、指導教員の授業を見学する機会がありました。そこではまず、教師と生徒の信頼関係が大切なことに気が付きました。信頼関係が築かれている授業は、生徒も楽しみ、協力しあうような授業でした。指導教員は授業中だけでなく、学校生活全体を通して生徒と積極的にコミュニケーションをとり、個々人の長を把握し、小さな変化に直ちに気づくことができるようしていました。それらが結果として、授業中の個々人に合わせた声かけや内容に繋がることにも気づかされました。

その後、私も授業をする機会がありましたが、これらのことは、授業前の準備がとても重要で、それが生徒との信頼関係に繋がり、また授業中における指示の内容やタイミングなどが的確にできるようになると改めて確認できました。

今後は、学校生活全体を通して生徒と積極的にコミュニケーションをとり、信頼関係を築きたいと考えております。その上で生徒がスポーツの特徴や楽しさ、できるようになる喜びを実感することができる授業を展開していきたいと思っています。





教育実習体験報告(英語)

国際福祉開発学部 国際福祉開発学科4年 中野憂美

私は、母校である日本福祉大学附属高等学校において教育実習を行いました。

期間は8月下旬から9月上旬までの3週間、新型コロナウイルス対策として授業中の換気や消毒、活動の制限などを徹底していました。この時期に実習が実現できたことに、深く感謝しています。

自分が教壇に立った初回の授業では、とにかく授業を計画通り進めて終わらせなければならないと焦って、生徒の様子を見ることができませんでした。しかし、回数を重ねる毎に生徒の様子を見ながら授業をすることができるようになりました。それは、やはり生徒とコミュニケーションを取ることができるようになったからだ実感しています。

初めはなかなか自分から生徒に話しかけることができなかつたけれど、嬉しいことに生徒の方から積極的に関わろうとしてくれてスムーズに会話をするようになり、落ち着いて授業を進められるようになりました。

また、実習最終日は文化祭でしたが、大人しい生徒が普段はあまり関わっていない生徒と話していたり、有志発表に出場した生徒が本当に楽しそうにパフォーマンスしていたりと、授業では見られない生徒の表情を見ることができました。これは、授業以外の学校行事の意義を考えるよい機会となりました。

実習中に一番大変だったことは、毎回の授業準備です。パワーポイント資料や授業プリントを作成することにかなり時間がかかり、週末の時間もほとんど準備に充てることになりました。それでも、他の実習生たちと励まし合い、指導教官には親身になって支えていただいたことにより、生徒が英語を使い、意欲的に取り組める授業を目指して最後までやり遂げることができました。

実習を終えて、本当に実りのある3週間だったと改めて感じています。予想外の出来事ばかりが起こることには驚きましたが、同時に、物事に柔軟に対応する力の大切さを学びました。そして、生徒からの感謝の言葉を聞いたとき、それがどれだけ嬉しいものであり、教師のやりがいにつながるものであるか、まさに体感することができました。

実習校の先生方や生徒のみなさんからいただいた多くの学びと思い出を大切にして、これからの社会人としての生活の中でも学校や地域の教育に貢献したいと考えます。



実行委員会形式による学生主体の実習報告会開催

本年度は例年と異なり、小学校教育実習全体報告会を学生による実行委員会形式で行いました。以下、実行委員のひとりである福林倭吹さんに、取り組みの経過報告とまとめを寄せていただきました。

(板垣賢二)

教育実習報告会の企画・運営を終えて

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修3年 福林倭吹

2020年度小学校教育実習報告会(12/17)の企画・運営を同年度3年生の実行委員7名で行った。何を思い、どんなことをしたのかを以下まとめる。教育実習報告会の企画・運営を学生主体で行うにあたっての一連の流れは以下の通りである。

- ①Facebook 投稿
- ②企画書の提出
- ③実行委員発足
- ④実行委員会始動
- ⑤運営会議
- ⑥教育実習報告会当日

①Facebook 投稿 (10/13)

感染症対策のため実習期間が半分になり教育実習を終えた学生同士で実習の内容を振り返ると、他県同士はもちろん、同じ県内の学校でも実習内容が大きく異なることを感じた私が、自身のFBで「教育実習を終えた学生で、実習の振り返りを行いたい」と投稿したことがきっかけである。今年度まで、教育実習の事前指導については、全体で行ってきたが、教育実習の事後指導については、各実習担当教員の個別的な指導で収まっており、各学校での違いを共有する機会が無かったことを踏まえ、一部の希望者だけでも集まり、教育実習を振り返りたいと思い、投稿した。

②企画書の提出 (10/14)

Facebookのやり取りで、障害児心理専修の先輩が同じように教育実習の振り返りを学生同士で行っていたことを知り、そこに教員を追加した形で、実現ができないかを検討した。希望を出した学生と一部教員が集まり、より情報共有、振り返りの活発化を図る場面の設定を企画書としてまとめ、学校教育専修、教育実習担当の板垣先生・齋藤先生に連絡をした。この時点では、あくまで希望者を募り少人数での報告会になると、想定していた。

③実行委員発足(10/14)

今年度(2020年度)は新型コロナウイルスの影響により、愛知県では実習期間が2週間と半分になる措置があった。その実習できなかった2週間を課題などで補填していた。その関係もあり、例年ではあやふやになっていた教育実習事後指導について、教員は力を入れようとしていたがまだ事後報告会をどのようにするかは決まっていないような状態であった。そこに提出した企画書を見た教員が、全体の教育実習報告会を学生が主体で企画・運営してみるのはいかがでしょうかという話になった。そのためにまず教育実習報告会実行委員を発足して、話を始めていくのがいいというアドバイスをもらい、スタートした。

④実行委員会始動(10/22)

LINE グループで、学校教育専修・障害児心理専修（小学校免許取得）の学生に呼び掛けて、集まったメンバーは5人だった。実行委員前に実行委員で何を話し合うのか、どのようなことを決めていくのか、議題を決める「準備委員会」を開催した。報告会の位置づけ等が曖昧になっていたため、この報告会が、本学担当教員からの指導（事後指導）を受けた後の全体発表会であることを確認した。

第一回実行委員会(10/29)では、報告会の柱となるテーマを決めることをした。学校での学びをどう生かしたか、生かせなかったかという両方の意見を均等に出すにはどのようなテーマにすればよいか、なかなかテーマが決まらなかった。

ここまでは教員も委員会の話し合いに参加していたが、以降最終確認まで教員は参加していない。

(11/5, 11/12, 11/17)と学生同士で話し合いを進めた（最終参加者7人）。毎回21時～25時過ぎまで話し合いを続けた。当日の時間帯の設定（何限から何限まで行うのか等）、報告会の発表の単位のアンケートは学生が全員参加しているLINEグループの投票機能を使った。委員会で決まったことは、実行委員終了後PDFファイルにまとめて随時共有をした。当日の企画、流れが決まり次第、教員に依頼をし、nfu.jpのスタディページにお知らせがいくようにした。

⑤運営会議(12月)

当日の流れ、また当日までに準備しておくことなどが各グループであったため、それらのグループからリーダーをピックアップし、各リーダー+実行委員で運営会議を当日までに2回行った。LINEやnfu.jpのスタディ掲示板の文章だけでは伝えきれない部分があると思い、当日のスムーズな進行のためにも開催した。振り返ると、この運営会議が報告会成功の鍵だったと思う。

⑥教育実習報告会当日(12/17)

報告会はzoomで行った。できるだけ通信障害等トラブルを回避するため、実行委員の3人が学校へ行き、教員のパソコンを操作した。当日の司会進行係、パソコン操作係、その他補助係と役割分担をして進行をした。午前中に操作確認(リハ)、午後本番と一日かかった。運営会議でグループに一人は確実に当日の流れや話し合いの内容を把握している人間がいる状態で行ったため、グループでの話し合い、全体への共有と実行委員のねらい通りの進行ができた。

教育実習報告会の企画運営を終えて

まず、学生間、教員間への情報共有がとても困難であった。当日の流れや、事前に準備しなければ当日報告会ができなくなるため、ちゃんと情報は共有できているのかがとても不安になった。繰り返すにはなるが、運営会議がとても成功への大きなカギになったと感じる。

次にグループ作成において、今回の報告会ではそれぞれの問題提起での話し合いを2グループ作ってそれぞれに話し合いの内容を共有させ、短時間でより多くの問題提起に触れられるよう設定した。同じ担当教員になる人をなるべく減らすこと、おなじ問題提起について話し合いをした人をなるべく減らすこと、各グループのリーダーの選定などが、普段の生活の関わりがなければできなかったことだろうと思う。この作業は永井渚さん中心に行った。彼の人脈が無ければ報告会は成功しなかっただろう。

最後に、今回の報告会成功について、実行委員全員の協力ができたからこそだと考えている。それぞれが与えられた役割を徹底して行った。個人が出すアイデアの良い部分をまとめてできたのが今回の報告会である。テスト前という忙しい期間の中、協力し合えた実行委員には感謝しきれない。また、報告会の準備や当日の交流に積極的に参加してくれた皆さんにも感謝したい。

自分たちのことを自分たちが決めるとことは、本来必要であることだと考えるが、小学生から今まで、与えられたことを望まれる通りにただ行ってきただけだと感じた。自分たちが一から考え、実行をする機会を与えてくださった先生方にも感謝したい。そしてこのような経験を子どもたちに与えられるような教師を目指したい。

実行委員メンバー

子ども発達学部	子ども発達学科	学校教育専修3年	乾将勝
子ども発達学部	子ども発達学科	学校教育専修3年	太田匡紘
子ども発達学部	子ども発達学科	学校教育専修3年	野畑佑紀哉
子ども発達学部	子ども発達学科	学校教育専修3年	永井渚
子ども発達学部	子ども発達学科	学校教育専修3年	杉原大輝
子ども発達学部	子ども発達学科	学校教育専修3年	福林俊吹



今後の予定

◆教職課程オリエンテーション

【新2年生】

美浜キャンパス 3月26日(金) 4限～5限

東海キャンパス 3月26日(金) 4限～5限

教職課程登録

仮登録：3月26日(金)～30日(火)

本登録：4月1日(木)～20日(火)

※教職課程オリエンテーションに出席後、仮登録(Googleフォーム入力)及び本登録(課程登録費振込+ Googleフォーム入力)を行ってください。

◆教育実習手続きオリエンテーション(美浜キャンパス)

【新2・3年生】

教育実習手続き(小学校・中学校・高等学校・特別支援学校 教育実習内諾依頼)及び介護等体験 説明

美浜キャンパス 4月8日(木) 3限

東海キャンパス 4月15日(木) 4限

※3年次4年次の教育実習校の内諾依頼に向けた手続きについて説明します。

【新4年生】

教育実習手続き(中学校・高等学校・特別支援学校 教育実習直前)及び介護等体験 説明

美浜キャンパス 4月8日(木) 4限

東海キャンパス 4月8日(木) 5限

※教育実習I事前事後指導のクラス・日程については各学部の時間割冊子を参照してください。